

小学生24人を招待 舗装の役割伝える

大成ロテック次世代
技術実証センター

大成ロテックは7月27日、福島県田村市の大成建設グループ次世代技術実証センター・田村で小学生を対象に見学会を開いた。写真（大成ロテック提供）。座学や舗装のテストコースを使った実験などを通じ、参加した児童に舗装の役割を伝えた。

市内の小学生24人が参加した。座学では大成ロテックの担当者が道路の役割を血管にたとえて説明。雨天時の安全性を高める排水性舗装や、地球温暖化や道路の老朽化といった社会課題に対応する新たな舗装技術

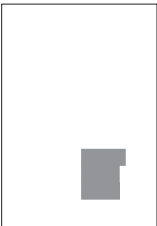


なども紹介した。

舗装のテストコースでは、総重量42トンの大型トラクター5台が無人で走行する耐久性試験を案内。実際の道路に長期間の交通荷重を与えることが舗装に与える影響について、短期間で

確認出来る仕組みも説明した。

雨水や再生水を活用する「ゼロウォータービル」や、生物・植物の生息環境を再生するネイチャーポジティブ実証フィールドも紹介。環境と技術が融合した取り組みを体感してもらった。センターには舗装のテストコースのほか、水道水に依存せず雨水による水循環の自立化を目指す「ゼロウォータービル」、生物多様性をつくり評価する実証空間「ネイチャーフィールド」などを備える。道路舗装や自然環境の再生などをテーマに技術を研究・実証している。



※無断転載・複写不可